



愛車の手入れもこの場所で行いたいという事で無柱の大庇を製作。特注のステンレス金物を製作し、大きな庇を上から吊る構造を考えた。



室内側に設けた土間スペースには薪ストーブを設置。土足のまま出入りできるスペースは民家の土間と同じく様々な用途で使えて便利。



進入路から見た外観。ワークスペースの大きな庇と格子建具が特徴的。格子戸を開けると内と外がつながり、暮らしの楽しみもより広がっていく。

木の家は 家族の遊び場

完成現場報告

森町 / 『青天の家』

文・写真 / コロラボ 山崎健治



照りつける日差しがいつの間にか穏やかにになり、風も雲も空の色も、心地よい秋を感じる季節になりました。今回ご紹介する『青天の家』と名付けたYさんのお宅は、ちやうど二年前の同じ季節に工事がスタートし、昨年の3月に完成しました。青く澄み渡った空を見ると、Yさんの敷地で見えた、抜けるような青空や、眼下に広がる懐かしい景色を思い出します。

Yさんご夫婦が選んだ敷地は少し小高い場所であり、近くの田や畑から遠くの山並みまでが一望出来る清々しい景色に恵まれた敷地でした。決して便利な場所ではないですが、伸び伸びとしたこの場所で新しい暮らしをスタートしたいと熱意を持って語るYさんは頼もしく、また秘密基地をつくる無邪気な子供のようなありました。打ち合わせの際も溢れる想いを語り、すでに頭の中ではこの場所に暮らす(遊ぶ)イメージが出来ていると感じた事もしばしばありました。打合せから完成まで熱の入った時間を過ごし、またその後もちやうどちよく暮らしを覗かせていただいています。ですが、当初のイメージ通り、家中から家族の笑い声が聞こえて来るお宅になったと思います。今回は、恵まれた周辺環境を活かした伸び伸びとした木の家のご紹介と共に、Yさんの遊び心を取り入れた細部などもご紹介いたします。

内と外をつないだ 大庇と格子建具

茶畑を抜けた進入路から見ると、まずはじめに目に入るのは、玄関ポーチに繋がった大きな庇と格子建具。広い軒下は内部の土間と繋がったワークスペースとしてつくられました。大きな庇は雨や日差しを遮り内と外との中間的な場所としてとても重宝な場所。愛車の手入れもこの場所で行いたいと言うことで、無柱で車一台分のスペースが条件となりました。柱を建てれば難しい構造ではないですが、無柱となるとなかなか難しい。下がダメなら上で支える工法を考え、ステンレスパイプを加工して吊り金物を製作し、軽やかな大庇をつくる事が出来ました。軒下の空間には杉板を貼り、外部からも木の家を感じさせるエントランスが出来ました。大庇と共に外観のアクセントになっている格子建具は道路からの目隠しと網戸の役割を持たせています。格子戸を開けたり閉めたりすることで雰囲気もガラリと変わり、季節や天気、その日の気分などで様々な使い方のできる機能的な建具になりました。

大きな格子建具を開けると薪ストーブのある土間に繋がります。ここはまさに家の中の遊び場。周辺にはお気に入りのグッズが置かれ、子供たちやワンコと共に自由に楽しく使われていると感じました。



右) 3m60cmの長いキッチンを広間に対面する配置で製作。一列に並んだシンクとコンロの他に広い作業スペース生まれ、広間との関係も絶妙。シンプルで使いやすいキッチンとなった。

左上) キッチンにはあえて扉を設けずオープンな棚のみとした。お料理好きのご夫婦。毎日の作業を考えると隠す収納よりも、目で見てすぐに取り出せるオープンな棚収納の方が自分たちのスタイルに合っていると選択。機能美を感じ、Yさんご夫婦らしいキッチンだなと納得。

左下) キッチンの広間側にも棚を受け、細かな収納や飾り棚として利用している。浅い棚ではあるが、CDやおもちゃ、旅の思い出の品などが置かれ、収納を兼ねた楽しい場所になっている。



長いキッチンは シンプルで便利

広間に対面する形でキッチンを配置しました。シンクとコンロを配置した通常のI型キッチンと言えば2500mm〜2700mmのサイズが一般的ですが、Yさんのお宅のキッチンは3600mmの長いキッチンを製作しました。キッチンの形にも色々あり、シンクとコンロが分かれた二の字型やL字型の字型、アイランド型…使い勝手や収納など様々な特徴がありますが、コンパクトな動線を考えるとやはりスタンダードなI型も人気です。I型の欠点はシンクとコンロの間の作業スペースが小さい事。食洗機を入れて水切りかごを置かないとか、背面に配膳の棚を設けたりと解決策もあります。単純にキッチンを長くする事で作業スペースを確保し、使いやすいキッチンをつくる事にしました。長さだけでなく奥行きも広げて広間からの配膳にも一役。毎日使うキッチンだからこそ自分流にアレンジして使いやすいキッチンをつくりました。キッチンの背面には食器棚を造り付け、また、キッチンの奥行きを利用して広間側から使える収納棚を設けました。棚にはCDや本、おもちゃや思い出の品など色々な物が置かれ、Yさん家族の雰囲気を感じられる楽しい場所になっています。



広間北側を見る。敷地形状を生かして北側にも掃出し窓を設置した。窓からは田や畑、遠くの間山並みが一望出来、清々しい景色を見る事が出来る。



広間と土間にはあえて仕切りを設けず一帯の空間とした。床に段差がある事で空間に変化が生まれ、家の中に遊び場が出来たようで楽しい。

ワンルームの中にある 家族の暮らし

土間に置かれた薪ストーブを楽しむため、土間と広間の間には、あえて建具を設けずワンルームの空間としました。打合せ当初、少し落ち着かない空間になる事を心配しましたが、Yさん流の暮らしに心配はご無用。どこにいても家族を感じる伸び伸びとした空間になり、走り回る子供たちを見ていると、これで良かったなと安心しました。広間にはダイニングテーブルの代わりに一枚の大きな板が置かれ、食事や来客の場所として利用しています。これもYさん流の暮らし方。テーブルや椅子を置く目的が決まってしまうからと、簡単に移動出来る座卓タイプを選択しました。座布団の代わりに置かれたカラフルな小さな椅子もポイント、必要な時だけ使え、簡単に片付けられる優れものです。



広間の一角に設けた造り付けのソファコーナー。大工が下地をつくり、クッションをマジックテープで止めた簡単な仕組み。子供たちのお気に入りの場所にもなっている。

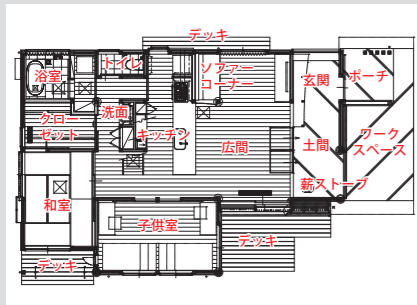
Yさんと子供たちが座っておやつを食べている時にふと感じた事があります。椅子に座ってテーブル越しに見るお父さん、床に座って座卓越しに見るお父さんでは印象が違う。上半身全てが見えるお父さんはとても大きく見えてたくましい。ちゃんと横に座ってくれるお母さんはいつでも助けしてくれる優しさを感じました。自然とこの位置に座っているのだと思いますが、椅子とテーブルの暮らしと違い、子供たちの心の成長にも大きく関係する事だと考えさせられました。

広々とした広間ですが、北側の一角に造り付けのソファをつくりました。テレビを見たり本を読んだり、子供たちもお気に入りの場所。ソファと合わせて、ちょっとした肘掛やコーナーに吊るされたペンダント照明などもYさんのチョイス。独特の雰囲気が生まれ、ワンルームの中にちょっとした心地よい居場所が生まれています。今回初めて製作した造り付けソファは、大工が下地をつくりその上にマジックテープで貼られたクッションが設置されています。クッションの中身素材や硬さ、生地の色や縫い方など、実際につくってみると様々な選択肢がある事を知りました。カバーもジッパー式になっていて、洗濯や取り替えも可能です。Yさんのお宅で得た経験を元に、その後もソファづくりにチャレンジしています。

『青天の家』
Yさんの遊び心ある工夫と
仕上がりをご紹介します

仕様内容

| | |
|-------|---|
| 家族構成 | 家族4人 |
| 敷地面積 | 385㎡ |
| 建築面積 | 114.30㎡ |
| 延べ床面積 | 110.91㎡ |
| 構法 | 落し込み板壁構法 |
| 屋根 | ガルバリウム鋼板 タテハゼ葺き |
| 外壁 | ガルバリウム鋼板 角波縦貼り 漆喰コテ押え仕上、杉板目板押え仕上 |
| 外部建具 | 木製オリジナル建具 ナラ、タモ、ヒバ (ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス) |
| 天井仕上 | 杉板本実張り 厚12mm |
| 壁 | 青森ヒバPJ本実板張り 厚15mm 漆喰塗り、青森ヒバPJ本実板張り、 落し込み板現し |
| 床 | 杉本実板 厚30mm |
| 内部建具 | オリジナル木製建具 |
| キッチン | ステンレスヘアライン天板 オリジナルキッチン |
| 洗面化粧台 | TOTO SK7オリジナル洗面台 |
| 浴室 | オリジナル浴室 300角サーモタイル貼 青森ヒバ貼 |
| 設計者 | 山崎健治 |
| 施工 | 有限会社こころ木造建築研究所 |
| 竣工 | 平成28年3月 |



1F平面図



板倉の木の壁に包まれた子供室。素朴な素材、空間ではあるが、本物の素材に包まれた空間には健全で安心した空気が流れている。子供室はおもちゃ天国、子供たちのお城。



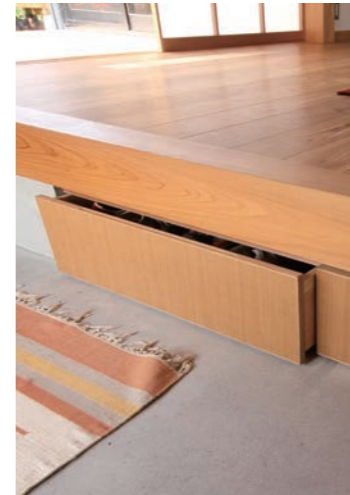
大庇の軒下は多目的に利用できる。子供たちは自転車や遊び道具を置き、お父さんは椅子でぼーっとする混在の場所。



テレビ、オーディオ、ギター。床に敷かれた大谷石がちょっとしたスペースをつくっている。



タモのカウンターの洗面台。シンプルな作りだが本物の素材を使う事に意味がある…。とYさんも思っているはず。



土間と広間の段差を利用して引出しを2つ作成。奥行きもあってたくさん入るが、何が入っているかは秘密。



Yさんの選んだ薪ストーブはコンツウラC850。すらっとした縦型ストーブで3面ガラスが特長。オシャレで品がある薪ストーブだが、土間に置かれているため少しワイルドに感じる部分も…。Yさんらしいと思う選択。

暮らしを導く家づくり

今回取材にお伺いしたのは8月下旬。外にいるだけで汗がにじむ暑い1日でしたが、家の中にはとても心地よい風が流れていました。東の玄関から入る風が南や北に通り抜け、家の中にも外にいても外にいても爽やかな風が流れていました。大きな窓を全開にして、子供たちもお父さんも自由に内と外を出入り。遊んだり作業をしたり、家で時間を楽しんで。お母さんはキッチンでご飯の支度をしながら、みんながどこにいるか自然と把握。見えなくても声や足音が聞こえる。Yさんの暮らしでは当たり前前の光景ですが、周辺環境や家のスタイルが違えば全く別の暮らしにもなっていたと思います。家づくりは暮らしをつくることだと改めて感じ、また、設計者としてその道に無理なく導いて行くことの大切さを実感しています。誰もが同じではなく、それぞれが自然体で暮らしていける住まいとは何か？ 答えはひとつではないと思います。が、お施主さんと共に考え、暮らし方に合った住まいをつくっていきたくと思っています。

夏も終わり、いよいよ新ストーブシーズンも近くなりましたね。Yさんのお宅もだんだんと冬支度かな、薪ストーブを囲んでまた楽しいひと時を過ごしましょう。



脱衣室と浴室の間の壁にガラスをはめ込むと広がりや明るさを感じられてgood。ガラス棚も色々置いて便利なスペース。



北側の眺望を利用した開放的な浴室。景色のいいお風呂は最高。高台なので道路からの視線も気にならない。



Yさんのお宅は、小屋組空間を利用してロフトがつけられている。暖気が逃げないようにと天井部分に2枚の障子でつくった蓋を取り付けた。